

令和 8 年度平塚市食育推進会議 会議録

日 時 令和 8 年 8 月 2 0 日（木）午後 2 時 0 0 分から午後 3 時 0 5 分まで
会 場 平塚市保健センター（平塚市東豊田 4 4 8－3） 2 階 健康学習室
出席者 有近会長、長谷川副会長、松井委員、江原委員、吉村委員、清水委員、柴崎委員、河合委員、
市川委員、近藤委員、川原委員
欠席者 須田委員、松本委員、小林委員、久保田委員、下島委員
事務局 田村健康課長、健康課職員 5 人

開会

委員変更に伴う委嘱状の交付

田村健康課長より柴崎委員及び市川委員に委嘱状を交付した。

田村健康課長あいさつ

日頃から平塚市の食育推進へ御尽力いただき感謝申し上げます。本会議は、平成 1 7 年に施行された食育基本法に基づく市町村の個別計画の策定のため、平成 1 9 年度に「平塚市食育推進委員会」として発足された。その後、名称を「推進会議」に改め、計画の審議や実施の推進を目的として開催している。

平成 2 2 年 3 月に「平塚市食育推進計画」を策定し、現行の「第 3 次平塚市食育推進計画」は「ひらつか健康・食育プラン 2 1」として令和 6 年度から 1 2 年間の計画として進行中である。本計画も令和 1 1 年度には中間見直しを迎えるため、令和 1 0 年度頃には市民アンケートの実施を予定している。その間、取組状況等を報告するため、引き続き御協力と御理解をいただけるようお願い申し上げます。

本日は委員のそれぞれの立場から忌憚のないご意見をいただき参考にしたい。

有近会長あいさつ

昨年度に引き続き、今年度も食育推進会議の会長を拝命した。議事進行をさせていただく。本日の会議は、第 3 次食育推進計画の 2 年目となる令和 7 年度の取組内容を確認するとともに、各分野で食育に携わる皆様から貴重な意見をいただき、本市の取組推進について確認したい。多くの委員の意見をいただきたいが、時間の限りがあるため円滑な会議運営への御協力をお願いします。

委員及び事務局職員の自己紹介

出席委員及び事務局職員自己紹介。

平塚市食育推進会議条例第 7 条第 2 項に規定する過半数の出席により成立することを報告。

配布資料確認及び、追加資料（条例及び差し替え用委員名簿）の説明をし、資料 3「平塚市食育推進会議の今後の在り方について」の表題末尾に「（案）」と追記する旨を訂正した。

議題 1 令和 7 年度食育推進計画事業評価について（資料 1）

【事務局からの説明】

（資料 1 について）

平塚市食育推進計画の指標の進捗及び平塚市における取組結果について、資料 1「令和 7 年度進捗評価報告書」にまとめた。「ひらつか健康・食育プラン 2 1」冊子の流れに沿って記載している。報告書内で使用している番号について、「管理番号」は各政策分野の指標に対象の年代順で振った番号、「市の取組」にある番号は冊子にある「市の主な取組」に振った通し番号である。「事業番号」は、具体的な事業番号に振った通し番号で、報告書内のみで使用する番号である。

（政策分野 1「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」－指標の進捗について）

指標の進捗において、3 歳児の「食塩を取りすぎないように心がけている者の割合」は、令和 6 年度の 9 2.8 %から令和 7 年度で 6 9.2 %へと低下している。これは 3 歳児健康診査時に行う「栄養・食生活アンケート」の回答からの出典であるが、回答選択肢を従来の 3 択（「①意識して薄味にしている」「②意識しているが濃くなることもある」「③意識していないし味付けは濃いめ」のうち①及び②を

「意識している」として集計）から2択（「①意識している」「②意識していない」）へと簡素化したことによる判定基準の変更に伴う変動である。

（政策分野1「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」－主な取組について）

妊娠期、乳児期及び幼児期においては、各世代への切れ目のない相談支援を継続して行った。「母子手帳発行時の栄養相談」として、母子手帳発行時に専属の管理栄養士による妊娠期の栄養相談を実施している。令和7年度の相談件数は475件で、初産婦における実施率は98%に達した。「妊婦等包括相談支援事業（妊娠後期）」は、妊娠8ヶ月の妊婦を対象としたアンケートである。送付数1,057件で回収率は62%である。令和7年12月からは、従来のペーパーアンケートから電話による相談支援へと変更し、201件実施した。「母親父親教室」の参加者数は、本市の出生数が微減傾向にあるにも関わらず（令和6年度1,315人、令和7年度1,289人）、100人近く増加した。「母親父親教室」のうち、「快適マタニティライフ編」の参加者は89人、「赤ちゃん誕生準備編」の参加者は730人であり、いずれも令和6年度よりも参加者数が増加している。「赤ちゃん誕生準備編」の参加者が多い背景には「産後パパ育休取得応援交付金」を受けるために「赤ちゃん誕生準備編」の講座を受講することが要件の1つとなっていることが挙げられる。「こんにちは赤ちゃん訪問」は1,297件実施し、親子の心身の状況や養育状況を把握した。「産後ケア事業のデイサービス（直営）ママはぐ」は12回開催し、母131人（子ども132人）に利用された。管理栄養士が用意した昼食を提供し、産後の身体的回復と心理的な安定を促すための支援を行った。

幼児健康診査（1歳6ヶ月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査）では、幼児期の望ましい食事量やよく噛むことの大切さを伝えるリーフレットを2,739枚配布し、個別の栄養相談を合計643件実施した。2歳児歯科健康診査においては、管理栄養士がエプロンシアターを用いて、早寝早起き朝ご飯の大切さを幼児期の子どもに直接伝えた。

「祖父母のための食育」は、祖父母の食育の理解を深めるために市内の保育施設等で787枚のリーフレットを配布した。令和7年度は紙媒体だけではなく、新たにPDFデータでの配布もできる形とし、時代のニーズに合わせた簡素化を図りつつ周知に努めた。「離乳食教室」は5、6か月児、7、8か月児、9か月～1歳6か月児の全3種類で合計26回開催し、延べ460人の保護者が参加した。それぞれの月齢に合わせた講話、実習及び試食の他、保護者自身の健康な食生活を考えていただくきっかけづくりも行った。「ホームページでの動画配信」は、就学前の子どもを想定した朝ごはん動画を4本配信した。子どもにできる調理工程が一目でわかり、家庭での実践を後押しできる仕上がりとなった。「保育所における食育の推進」として、公立保育園8園で食育講座やクッキングを実施した。例えば、園庭で子どもたちが育てたピーマンやナスなどを自分で収穫・調理して食べるという体験活動が挙げられる。

学童期及び思春期において、学校給食は小学校28校で187回、中学校1、2年生で170回、3年生で150回提供された。学校給食の提供のみならず、「食教育に関する普及啓発」の新規事業として、夏休み期間中に「学校給食献立クッキング教室」及び「学校給食展」を実施した。「学校給食展」では、回転釜を実際に動かす体験やエアーシャワー体験、手洗い体験などを通じて、市民に安全で衛生的な給食施設を見て触れてもらうことができ、本市の食育の優良事例として農林水産省のホームページに掲載された。「食に関する指導」は、小学校で2,435件、中学校で975件行われた。「思春期講座」は、市内6校に栄養士や助産師、保健師が出向き、適正体重の大切さや成長期に必要な栄養や朝食を欠食しない生活習慣について直接講話を行った。学校ごとの時間割の都合上、すべての中学校に直接出向くことが困難という課題があり、令和7年度は市内の全ての公立中学校3年生の家庭向けに健康的な体の作り方についてのテキストを作成し、一斉配布した。

学校以外では、「親子食育推進教室」や「児童や親子を対象とした事業」、「地域の商店等と連携した料理教室」を行った。「家庭への食育」という形で、各公民館において児童や親子を対象とした体験型講座（「親子クッキング教室」、「おもてなし料理教室」など）を行い、食生活改善推進団体をはじめとする地域の方に協力いただいた。また、「地域とのつながりによる食育」として、市内のパン製造会社と連携したフルーツサンド教室や、平塚農商高校と連携したパンづくり教室などを開催した。地域の専門家から直接学ぶ体験は、食への関心と理解を広げる大きな刺激となり、家庭や学校の枠を超えた貴重な食育の機会となった。

全てのライフステージにおいても様々な取組を行った。「みんなの消費生活展」は、食品添加物がどれだけ入っているかなどの展示を行った。来場者は約490人、7つ全てのブースを回った人は371人であった。「イベントでの食育体験・栄養相談」は、市内で開催されたイベントに出展し、塩分チェ

ックなどを行った。具体的には、ららぽーと湘南平塚での健康・食育フェスタ（参加者53人）の実施、神奈中周年祭（参加者52人）、日産車体フェア（参加者90人）に出展し、イベント等の場を活用して普段は意識が向かない方々にも健康を振り返ってもらうきっかけを作ることができた。「減塩食品普及事業」は、市内に店舗数が多いスーパー「しまむらストアー」に協力いただき、店舗内に減塩ポスターを掲示するとともに、減塩商品に「平塚市血圧プロジェクトロゴマーク」を貼付し減塩食品の普及PRを行った。店舗へのアンケートからは、約半数の店舗から減塩商品の売上増加が見られたという具体的な効果が報告された。市民が普段の買い物の中で自然と減塩を意識できる実効性の高い取組となった。「フレイル予防個別相談事業」は、ウエルシア薬局株式会社へ業務委託をし、「食えること応援ステーション」を平塚中原店と平塚四宮店の2店舗で計12回実施した。延べ参加者数165人のうち、122人が管理栄養士による専門的な個別相談を受けた。「健康健診結果説明会」は、健診結果の見方と生活改善の方法を伝える教室を行った。さらに、動画での啓発を拡充し、高血圧編に加えてニーズの高い血糖値編及び脂質編を追加した。「健診異常放置者・治療中断者対策」では、リスクのある方に早期に介入できるよう、条件を拡大した。

（政策分野2「地域の特性を活かした食育の推進」－指標の進捗について）

指標の進捗状況として特に注目したいのは「学校給食における地場産給食の実施回数」である。中間目標値5回、最終目標値6回に対して、令和7年度では小学校及び中学校で6回に達した。地場産給食として、神奈川県産品を給食に導入する「かながわ産品学校給食デー」や、市独自の取組である「あったかひらつかふれあい給食」を実施した。「あったかひらつか給食」では平塚産のお米「はるみ」や平塚産小松菜を使った焼売、地元企業である守山乳業の牛乳、湘南ベルマーレとコラボしたゼリー等の平塚の魅力が伝わるメニューを提供した。

「栄養教諭による食に関する指導実施校数」は、中間目標9校に対して小学校28校中17校で実施した。

（政策分野2「地域の特性を活かした食育の推進」－主な取組について）

「湘南ひらつかふれあいマーケット（朝市）」は、昨年度11月及び12月は会場の変更の都合により一時中止となったが、翌年の1月から会場を競輪場前の敷地に変更して開催され、年間10回の開催で7,216人が来場し、平塚産農水産物を身近に手に入れる場として広く親しまれた。

「地場産品PRイベント」は、農家さんの対面直売イベントである「軽トラ・ファーマーズ」をジアウトレット等で開催した。さらに、ベジ太が市内のこども園、保育園、幼稚園へ着ぐるみで訪問し、平塚産の野菜について楽しく広める「ベジ太訪問事業」も大好評であった。小学校への訪問に際しては、平塚市漁業協同組合のキャラクターである「ひらつかタマ三郎」も登場し、併せて魚のPRも実施するなど、多角的な食育活動を行った。「ふれあい給食授業」は、湘南農業協同組合、平塚市漁業協同組合、やまゆりポーク生産者協議会に協力いただき、小学校で計13回行われた。生産者から直接、農水畜産物の育て方の苦労や大切さを教えていただくことで地域の自然・産業に対する感謝と理解を育む機会となった。「ヒラメの稚魚放流」では、港小学校の5年生が約2万匹のヒラメの稚魚の放流を実施した。放流した稚魚が大きく育ち、やがて地どれの魚として平塚の直売会場に並ぶという命と資源の循環システムを子どもたちが身をもって学ぶ、本市ならではの食育の機会となった。

本市では小中学校の教育活動全体を通して食育を推進しているなかで、年に1回、各学校の食教育推進担当者や栄養教諭、学校栄養職員を集めて「食教育推進担当者会」を実施している。昨年度は、新設された学校給食センターの見学も兼ねて会場に指定し、栄養教諭による具体的な食育実践報告をベースとしたグループ協議等を実施した。国、県、市の最新の動向を踏まえながら、各学校で行う食育全体計画の作成及び見直しの手法について協議をし、現場での食育活動の具体的なイメージを参加者で共有することができた。

地域の特性を活かした食育を推進していくうえでの課題として、学校給食の現場において地場産食材の確保が困難であることが挙げられる。昨今の物価高騰に加え、近年の不安定な天候不順による不作があるなかで、小中学校すべての給食に必要な分量の地元産の野菜や米、魚を安定して買い揃えることは難しく、学校給食をはじめ関係各所が調達に苦慮している現状である。令和8年度以降においても、物価高や気象状況による流通の影響を考慮しながら限られた予算の範囲で子どもたちに地場産の食材を提供し続けられるよう、各所と連携したい。

【質疑・意見】

長谷川副会長： 3歳児の「食塩を取りすぎないように心がけている者の割合」の数値の減少について、選択肢が3つから2つへ変更されたことが理由であるが、今まで「意識しているが濃くなることもある」と答えていた層が、遠慮がちに「意識していない」と答える傾向があったということか。

事務局： そのように考えられる。「意識している」「意識していない」のどちらに該当するかを考えた際に、「意識しているが、結局食塩を摂りすぎないようにできていない」と感じる方が「意識していない」と答えた結果であると考えている。

長谷川副会長： 今後も2択での聞き方を続け、今回が新しい数値のスタート地点として考えるのか。

事務局： そのように考えている。

近藤委員： 今回、このアンケートに回答する機会があり、「意識していない」と回答した。実際、上に小学生の子どもがいるため、離乳食期のように3歳児用として個別で作るわけにいかず、味が濃くなってしまうことがある。そのため、「意識していない」と答えざるを得なかった。「意識しているが濃くなることもある」という選択肢があればそのように回答していたと思う。

平塚市は素敵な取組を多くしていると感じている。「広報ひらつか」に載っているイベントに参加することがある。「広報ひらつか」を開く人が全体の何割であるかわからないが、市民に平塚市の取組は知られているのか。平塚市の公式LINEも登録しているが、「広報ひらつか」に載っていた取組の通知を目にすることがある。若い世代やスマホを利用する高齢層に向けて、LINE登録者を増やす工夫をしてはどうか。例えば、平塚市のスターライトポイント還元時にLINE登録を必須にするなど、利用者に分かりやすいメリットを提示することで登録者を増やせば、素晴らしい食育活動がさらに幅広い世代に伝わると考える。

事務局： 健康・こども部のなかで、提供するサービスがわかりづらい点が課題であると認識しており、情報ポータルのようなサイトを作ろうとしている。サービス等について市民へ知っていただく機会を増やそうと取り組んでいるため、今後、具体的な手法を諮りながら進めていきたい。

有近会長： ぜひ進めていただきたい。

長谷川副会長： LINE登録はしているが、防災情報等の通知が多く、せっかくの食育イベントや有益な情報が埋もれて見落としてしまう懸念がある。また、YouTube配信は興味がある人が観るものであるため、無関心層には届きにくい。公の場でかけ流しにするなど、自然と目に入る環境づくりがあるとよい。無関心層をいかに巻き込むことで、今後の数値が良くなると感じる。

議題2 令和8年度食育推進計画政策分野別取組事業について（資料2）

【事務局からの説明】

現在のところ、令和7年度と比較して縮小する予定の事業はない。「湘南ひらつかふれあいマーケット（朝市）」の担当課が産業振興課から商業観光課へ変更した。

健康課では8月に市民の健康づくりと食育を広く推進するための「健康・食育フェスタ2026」を開催した。AI骨格分析システムを用いた体バランス測定のほか、血圧クイズ、飲料の砂糖量あて、血管年齢・骨密度測定など、子どもから大人まで楽しく自分の身体や食習慣を振り返るブースを多数実施した。学校給食課における夏休みの取組として、「学校給食献立クッキング教室」を開催した。また、7月30日には、「学校給食展」を開催した。教育指導課で実施している「食育推進担当者会」は6月に開催し、元栄養教諭で現在大学教員の講師を招いて具体的な実践例を講義していただいた。

以上のように、今年度においても既に事業を開始している。今後も、課題に対応しながら事業を推進していく。

【質疑・意見】

なし

議題３ 平塚市食育推進会議の今後の在り方について

平塚市食育推進会議の今後の在り方に関する案について事務局より説明を行った。

その他

今年度の会議開催の予定は無し。

閉会

以 上